



恋路ヶ浜 ハッピーエンド

「悪評」払拭

恋愛小説を配信

渥美半島の先端にある観光名所「恋路ヶ浜」(田原市伊良湖町)を舞台にした恋愛小説の連載がインターネットで掲載されている。実話に基づく物語で、伊良湖周辺の観光事業者でつくる「伊良湖岬観光協議会」の取り組み。同協議会では「恋路ヶ浜を文字通り恋愛成就の地としてPRしたい」と意気込みを示している。(榊原宗一)

伊良湖岬や恋路ヶ浜は島

た伊良湖岬灯台などで知ら

崎藤村の「椰子の実」の詩

れる風光明媚な人気観光

や日本の灯台50選に選ばれ

地。最近では「恋人の聖地」

「永遠の鐘」を鳴らし永遠の愛を誓う柴田さん夫婦



実在カップルをモデルに

「恋路ヶ浜LOVE（ラブ）ストーリー」のモデルになったのは田原市江比間町の農業柴田峻平さん（25）、志寿香さん（26）夫婦。2人は同市伊良湖町の恋路ヶ浜で、大勢の地元の人たちが見守る中、先月1日に結婚式を挙げ、「地域の人に支えられて生きていく実感を感じた。地域に根付いた農業で恩返しをした」と声を合わせた。

峻平さんは東京都江東区出身。設計事務所に勤務していたが、農業を志して約3年前に移り住み、目下独立に向け準備中。テレビのお見合い番組で大阪府守口市出身の志寿香さんと出会い、7月に入籍した。式を挙げる予定はなかったが、恋路ヶ浜を恋人の聖地としてPRする伊良湖岬観光協議会のメンバーとのふれあいの中で夢がふくらみ、挙式に至ったという。

2人は大勢の参列者の前で誓いの言葉を読み上げ、「永遠の鐘」を鳴らして永遠の愛を誓った。同協議会では今後、恋路ヶ浜で挙式をしたいという相談があればできる限り協力するとしている。

として売り出している。しかし、「許されぬ恋に落ちた高貴な男女が隠れ住んだが、2人とも海に身を投げた」という「カップルで訪れると別れる」という

影を落としていた。た言い伝えがあり、PRにそこを落としていた。そこで、同協議会では新しくハッピーエンドの物語をつくって広め、暗いうわさを払拭しようと発案。田

原市出身の作家で豊橋市在住の曰原いずみさん（41）に執筆を依頼し、配信を始めた。タイトルは「恋路ヶ浜LOVE（ラブ）ストーリー」。農業を志して東京から

来た男性と大阪出身の女性が渥美半島で出会い、新しい人生をスタートさせた実在のカップルがモデルだ。曰原さんは「古里・渥美の自然や暮らしを盛り込

み、リアリティーのある中編小説にしたい」と話す。毎月8のつく日に更新。先月28日時点で第五話まで掲載されているが、いつまで続くかは未定という。閲覧は無料で、「渥美商工会岬プロジェクト」で検索。問い合わせは同協議会の渡辺幹和さん（0531-3565

21）旅館・恋路ヶ浜 黒潮。